第1回インフォメーションミーティング

資料編

2018年6月12日

三十三フィナンシャルグループ

三重銀行　第三銀行

目　次

	ページ
三十三フィナンシャルグループの営業地盤 …	1
全国に占める三重・愛知両県のウエート …	2
三重・愛知両県の給与水準 …	3
三重・愛知両県の雇用環境 …	4
三重・愛知両県の住宅着工戸数 …	5
交通インフラ整備動向 …	6
名古屋駅周辺の再開発 …	7
三重県内金融機関の状況 …	8
三重県の経済圏の特徴 …	9
三重県の地域別経済水準 …	10
三重県の産業構造 …	11
三重県の製造業構成と生産動向 …	12
三重県下の大型投資 …	13
三重県の観光動向 …	14
拡大が見込まれるインバウンド需要 …	15
成長が期待される航空宇宙産業 …	16
預金内訳（三重銀行） …	17
預金内訳（第三銀行） …	18
貸出金内訳（三重銀行） …	19
貸出金内訳（第三銀行） …	20
利回り･利鞘（三重銀行） …	21
利回り･利鞘（第三銀行） …	22
自己査定債務者区分遷移状況（三重銀行） …	23
自己査定債務者区分遷移状況（第三銀行） …	24
経営強化計画（第三銀行） …	25

【本件に関するご照会先】

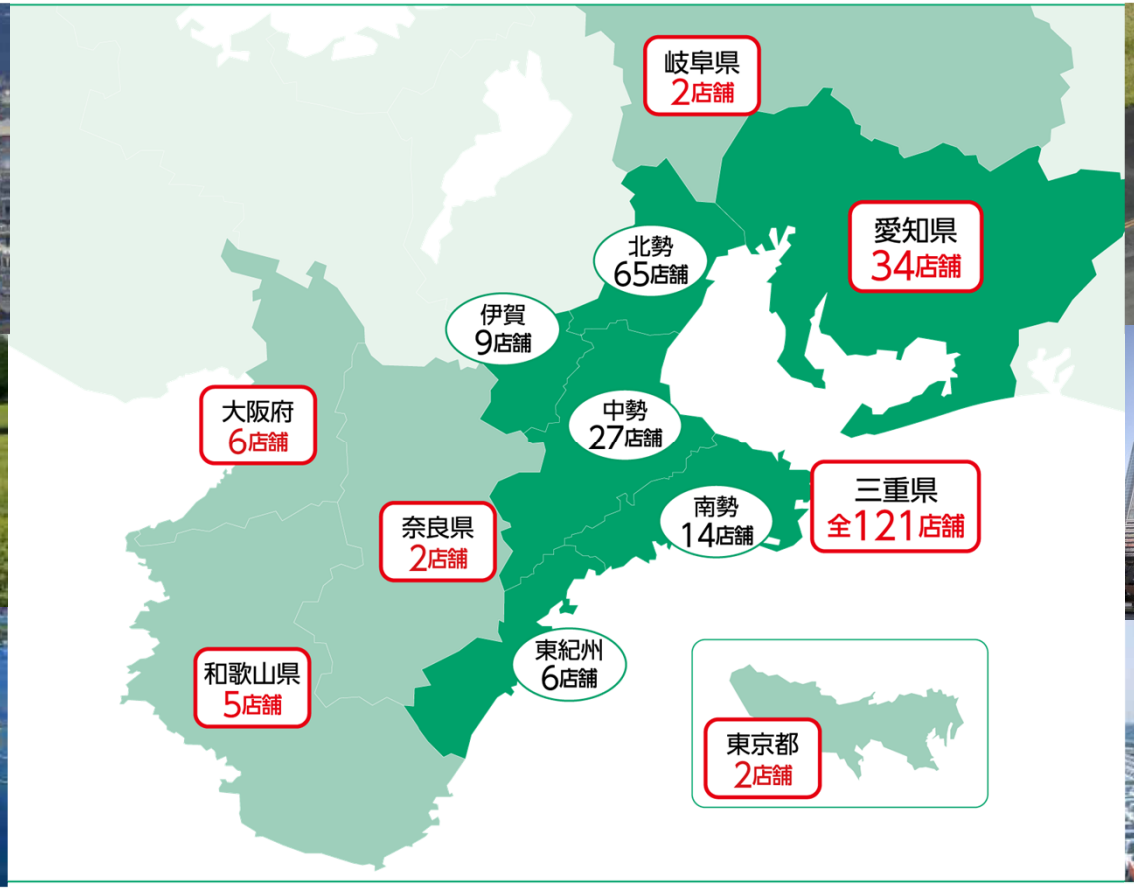
三十三フィナンシャルグループ

経営企画部　松田

TEL　059-354-7172　FAX　059-355-8225

E-mail　koho@miebank.co.jp

三十三フィナンシャルグループの営業地盤



店舗数	三重	北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	愛知	名古屋市内	名古屋市外	大阪	和歌山	奈良	岐阜	東京	合計
三重銀行	57	43	6	3	5	-	16	8	8	1	-	-	-	1	75
第三銀行	64	22	21	11	4	6	18	16	2	5	5	2	2	1	97
合　計	121	65	27	14	9	6	34	24	10	6	5	2	2	2	172

※店舗数は2018年6月12日現在（ローンプラザは除く）

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

全国に占める三重・愛知両県のウエート

➢人口、事業所数等の基礎的指標において、三重・愛知両県のウエートはそれぞれ1.5%、6.0%程度。
➢製造品出荷額等のウエートは、愛知（14.9%）、三重（3.3%）ともに他の指標と比べて高水準。

経済圏 / 項目	全国	東海	三重県		愛知県		岐阜県	統計名 / 年次
総面積（K㎡）	377,971	21,568	25位	5,774	27位	5,172	10,621	「国勢調査」
構成比（%）	100.0	5.7		1.5		1.4	2.8	2015年
人口（千人）	127,095	11,331	22位	1,816	4位	7,483	2,032	「国勢調査」
構成比（%）	100.0	8.9		1.4		5.9	1.6	2015年
就業者数（千人）	58,919	5,557	22位	873	4位	3,669	1,016	「国勢調査」
構成比（%）	100.0	9.4		1.5		6.2	1.7	2015年
民営事業所（千カ所）	5,622	506	22位	80	3位	325	101	「経済センサス（活動調査）」
構成比（%）	100.0	9.0		1.4		5.8	1.8	2016年
名目域内総生産（億円）	5,142,963	508,555	19位	76,564	3位	359,903	72,088	「県民経済計算」
構成比（%）	100.0	9.9		1.5		7.0	1.4	2014年度
小売業販売額（億円）	1,380,156	124,843	22位	19,126	4位	84,744	20,973	「経済センサス（活動調査）」
構成比（%）	100.0	9.0		1.4		6.1	1.5	2015年
製造品出荷額等（億円）	2,999,173	598,618	9位	98,768	1位	446,416	53,434	「工業統計調査」
構成比（%）	100.0	20.0		**3.3**		**14.9**	1.8	2016年

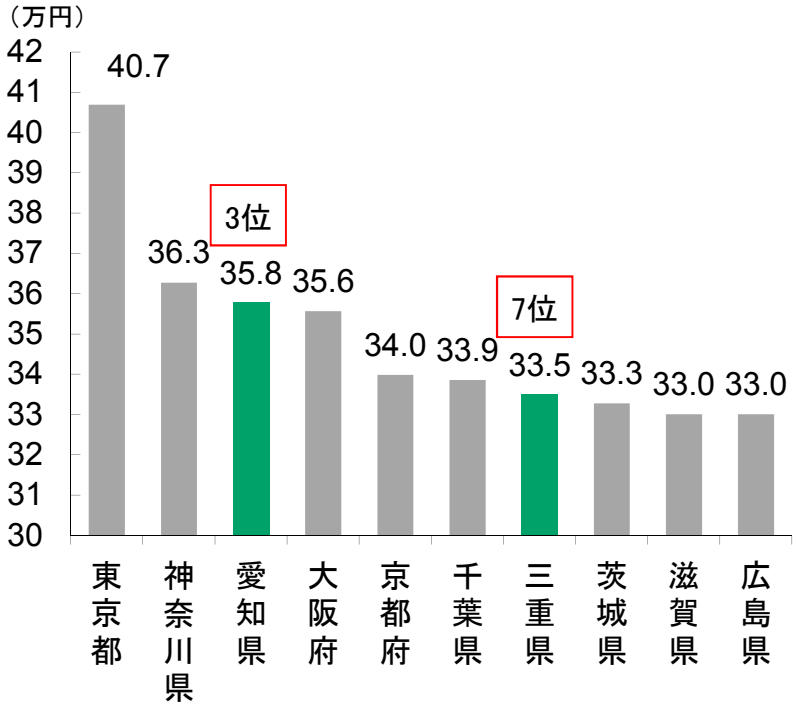
Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重・愛知両県の給与水準

➢2017年の定期給与（きまって支給する給与）額は、全都道府県中、愛知県（3位）、三重県（7位）ともに高い水準にあり、両県の所得環境は良好。

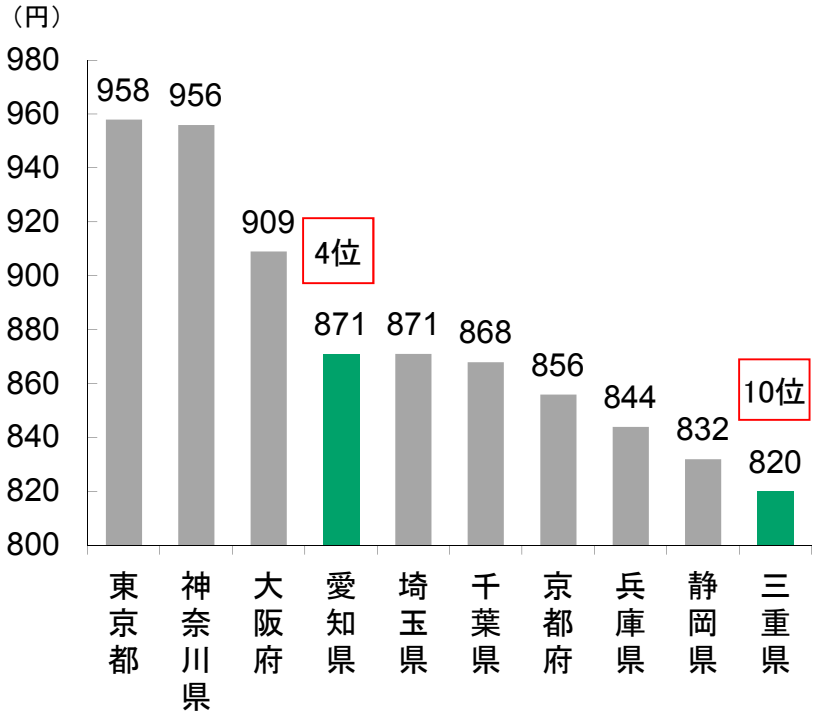
➢2017年度の最低賃金水準をみても、愛知県が4位、三重県が10位に位置。

＜都道府県別にみた定期給与額（2017年）＞



（資料）厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

＜都道府県別にみた最低賃金（2017年度）＞



（資料）厚生労働省「地域別最低賃金」

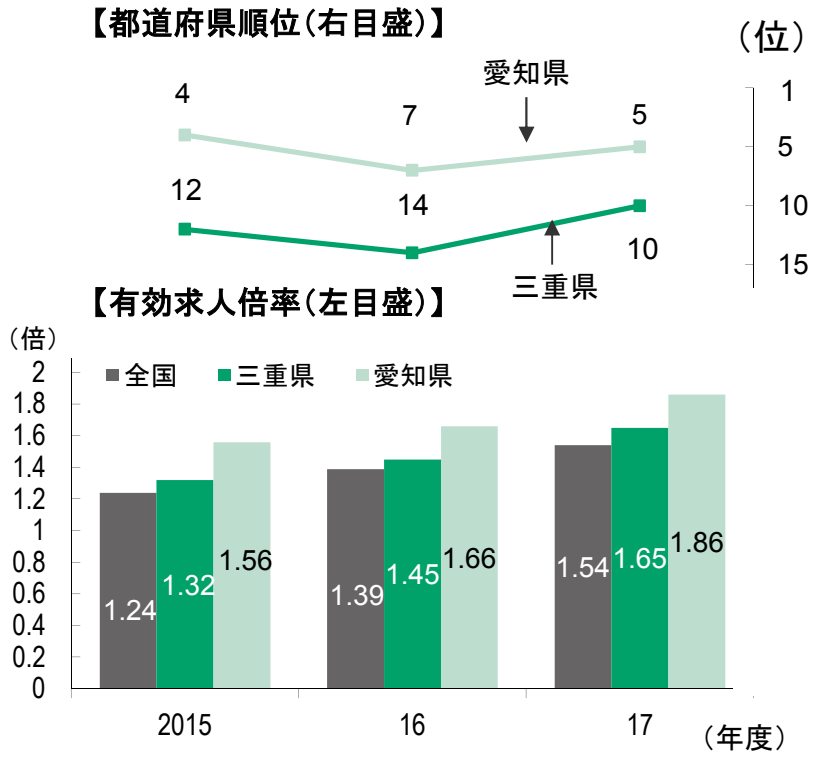
Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重・愛知両県の雇用環境

➢三重・愛知両県の有効求人倍率は全国を上回って推移し、良好な雇用環境が持続。

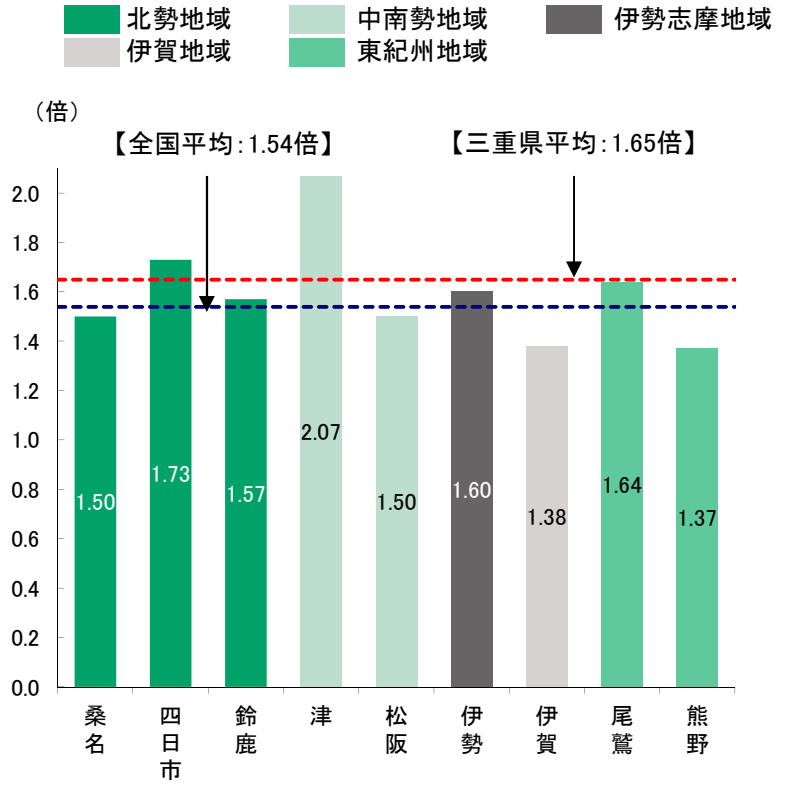
➢三重県内の有効求人倍率は、幅広い地域で全国平均を上回る状況。
とりわけ、津や四日市のハローワークが高い水準となっており、雇用環境は良好。

＜全国・三重県・愛知県の有効求人倍率＞



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

＜三重県内ハローワーク別有効求人倍率(2017年度)＞



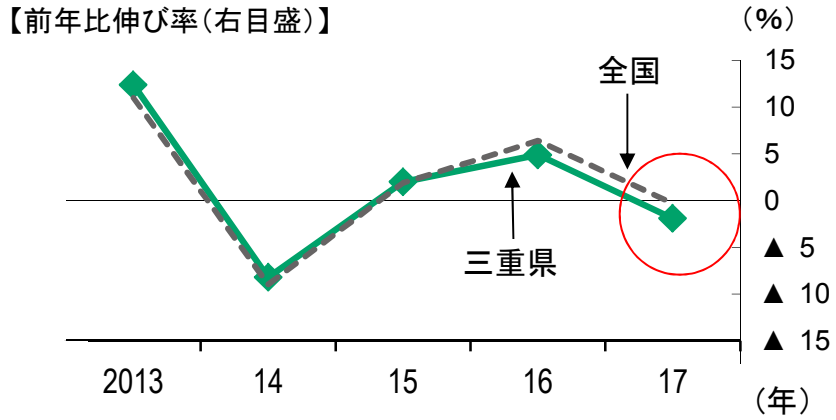
(資料)三重労働局「労働市場月報」

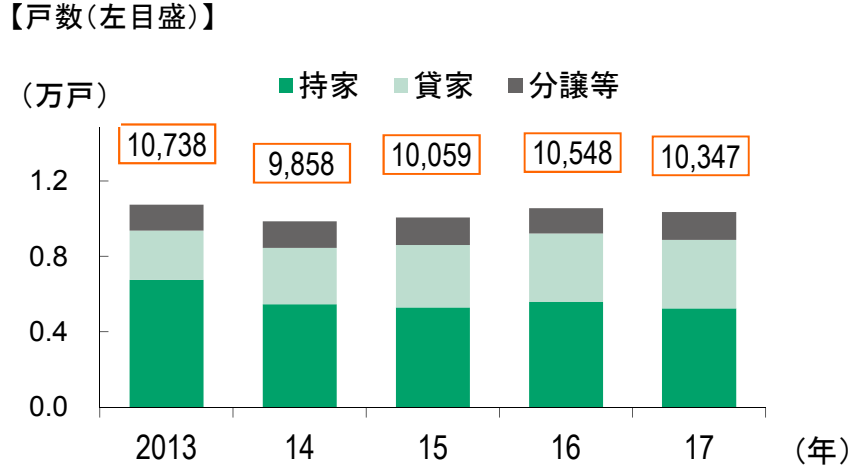
Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重・愛知両県の住宅着工戸数

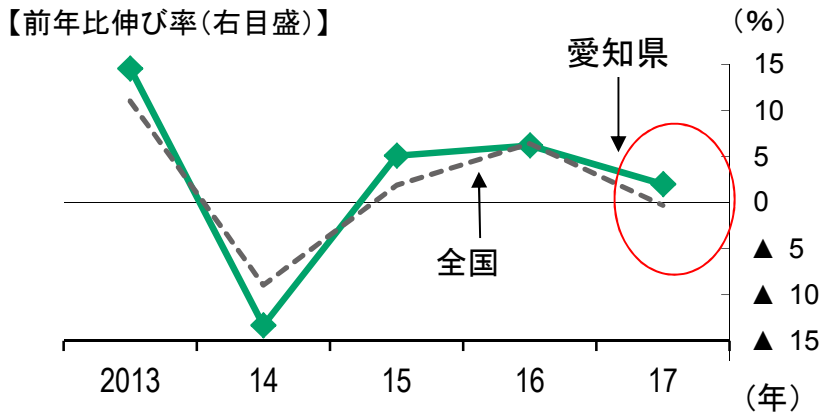
➢三重・愛知両県における2017年の住宅着工戸数は、全国と同じく増加基調が一服し、三重では小幅マイナス。

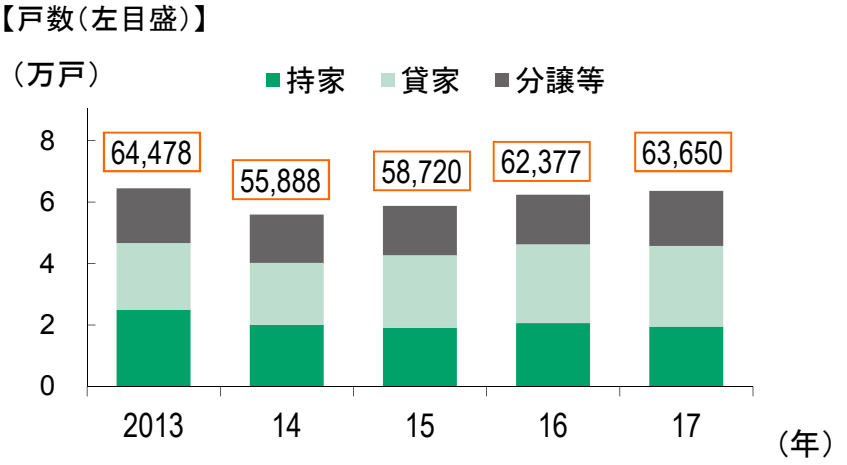
＜三重県住宅着工戸数＞





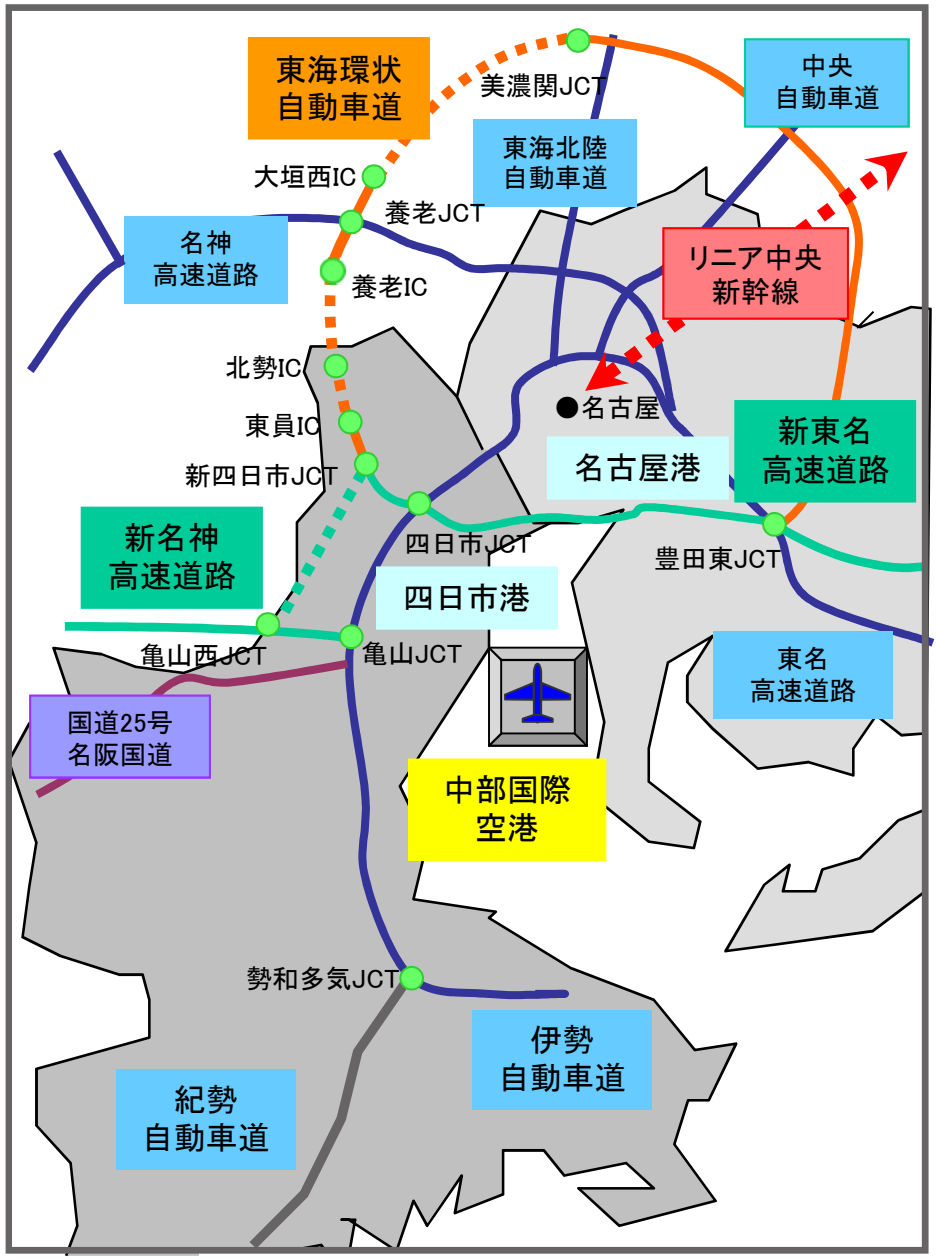
＜愛知県住宅着工戸数＞





Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

交通インフラ整備動向



新名神高速道路

四日市JCT－新四日市JCT間が2016年8月に開通したほか、新四日市JCT－亀山西JCT間も2018年度の開通に向けて建設中であり、東名阪自動車道の渋滞軽減が期待される。

東海環状自動車道

2005年3月、豊田東JCT－美濃関JCT間の東回りルートが開通。三重県を含む西回りルートも、2016年8月に東員IC－新四日市JCT間が開通。2024年度までに養老IC-北勢IC以外が開通予定。

リニア中央新幹線

品川－名古屋間でトンネルや新駅の工事が進捗しており、2027年に開業する予定。

紀勢自動車道

2014年3月に勢和多気JCT－尾鷲北IC間が全線開通。県南部の活性化や防災、緊急医療の強化が期待される。

中部国際空港

2017年度の旅客数は約1,153万人。航空機部品の輸出など、産業面においても重要な輸送拠点。

四日市港・名古屋港

中国や韓国、ASEAN諸国への定期航路が開設されており、アジアの玄関口としての役割が高まっている。

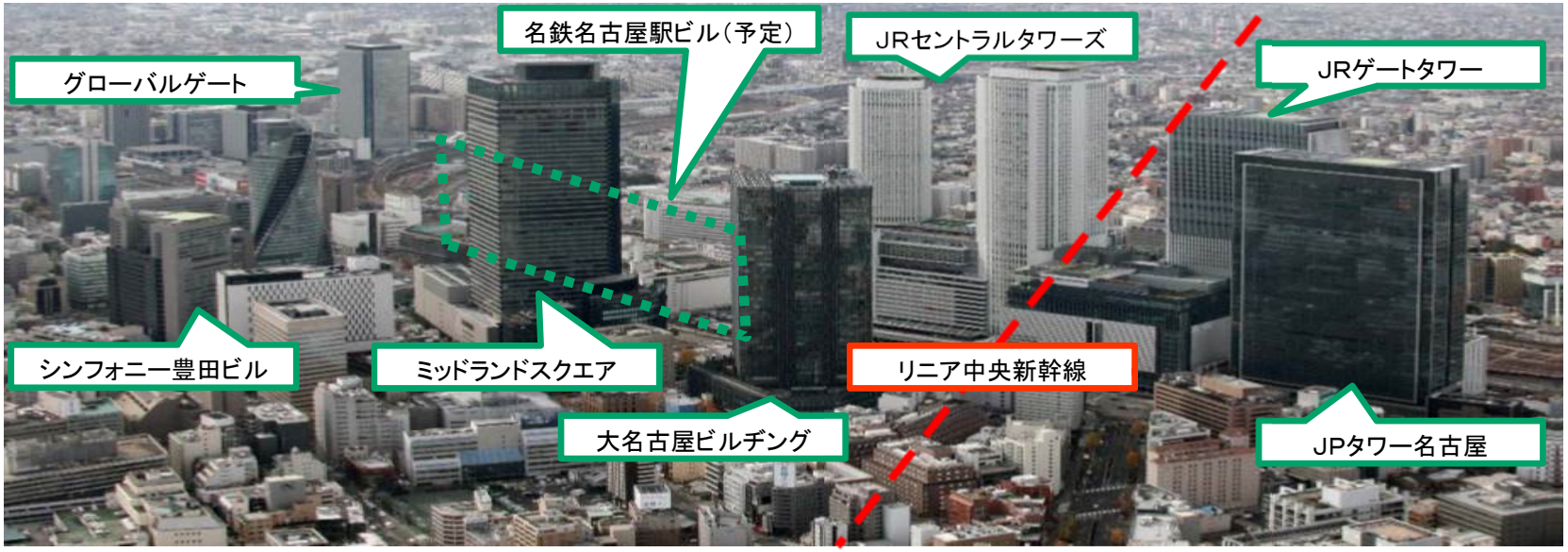
Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

名古屋駅周辺の再開発

- 名古屋駅周辺では、2027年のリニア中央新幹線開業に向けて、再開発計画が進行。都市再生制度を活用したJRゲートタワーをはじめとする民間再開発ビルが竣工するなど、行政・民間が連携。
- 名古屋駅では、乗り換えの利便性向上をはかるターミナルスクエアの整備計画があり、2027年度の名古屋駅周辺の人の動きは現在と比べ約13%増加する見込み。

リニア中央新幹線

東京（品川）-名古屋間　所要時間	名古屋-大阪間　所要時間
2027年開業　90分⇒40分	最速2037年開業　50分⇒27分



（資料）名古屋市住宅都市局資料をもとに三重銀総研作成

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重県内金融機関の状況

三重県内本店所在金融機関

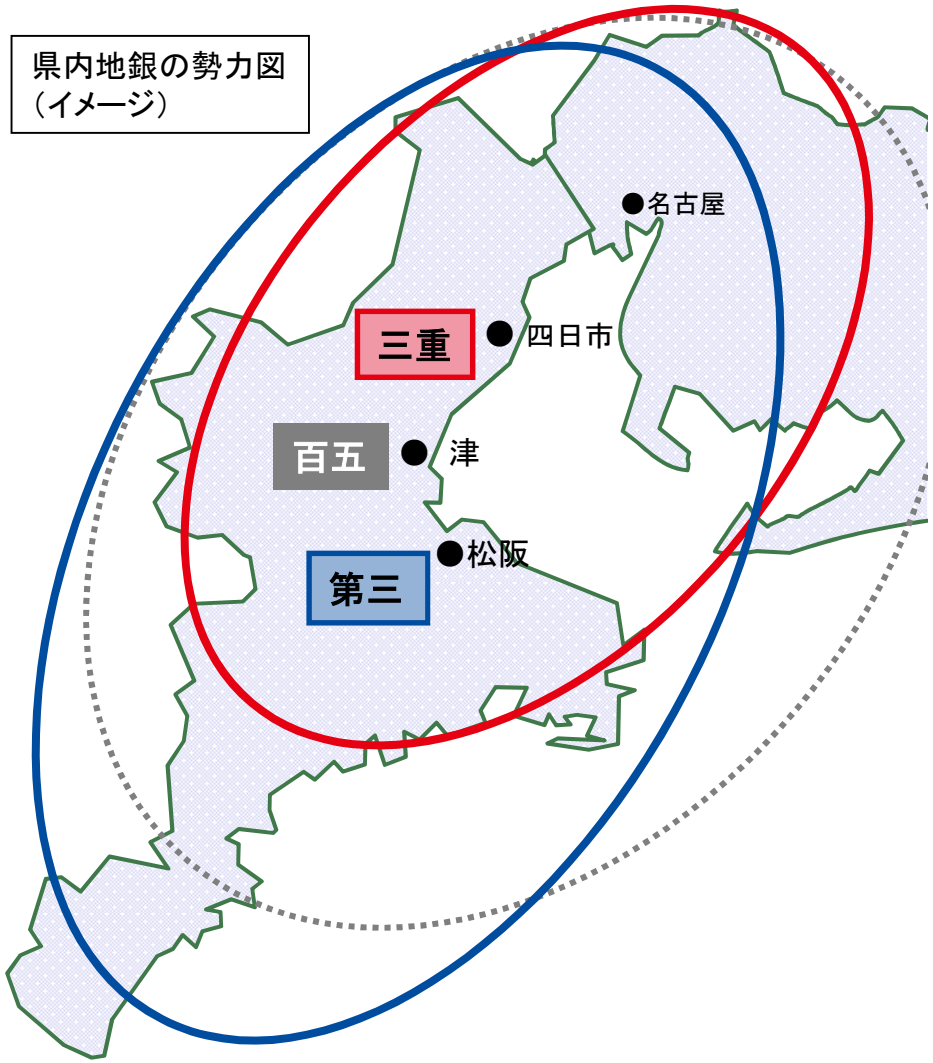
（単位：億円）

	金融機関名	貸出金残高	預金等残高	店舗数	本店所在地
1	百五銀行	31,020	49,103	136	津市
2	三十三フィナンシャルグループ	26,460	35,820	173	―
	三重銀行	13,695	17,669	75	四日市市
	第三銀行	12,765	18,150	98	松阪市
3	桑名信金	2,017	4,595	25	桑名市
4	北伊勢上野信金	1,920	4,231	32	四日市市
5	三重信金	1,114	2,647	19	松阪市
6	紀北信金	200	834	8	尾鷲市
7	津信金	198	1,129	6	津市
8	三重県職員信組	43	157	1	津市

※①.銀行は2018年3月末、その他は2017年3月末残高

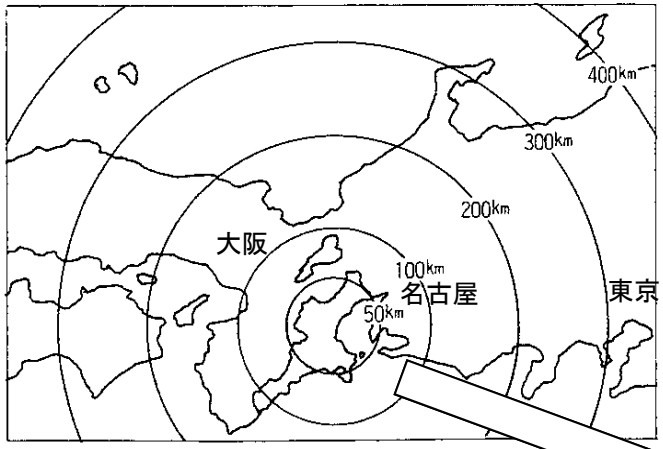
※② 3.桑名信金と5.三重信金は、2019年2月桑名三重信用金庫として合併予定

県内地銀の勢力図（イメージ）



Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重県の経済圏の特徴



北勢地域

県内経済の中心地。中京経済圏の一翼を担う。

中南勢地域

県庁所在地の津市を中心とした公的機関の集積地であるほか、北勢地域に次ぐ工業地域。

伊勢志摩地域

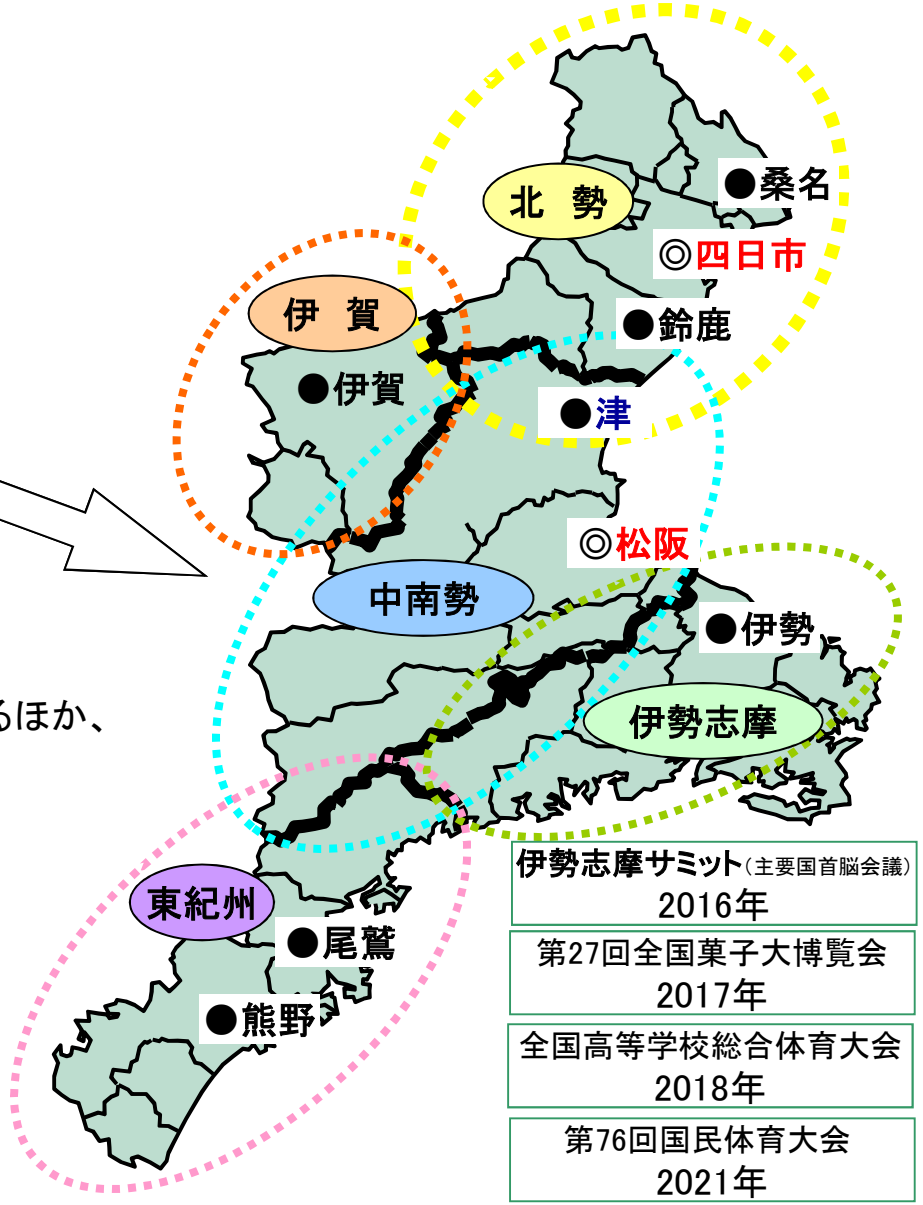
県内外や国外から多くの人が訪れる観光の中心地域。

伊賀地域

大阪経済圏の一角として関西との結びつきが強い。

東紀州地域

自然、文化、歴史の地域。県内の林業漁業の中心。



伊勢志摩サミット（主要国首脳会議）
2016年

第27回全国菓子大博覧会
2017年

全国高等学校総合体育大会
2018年

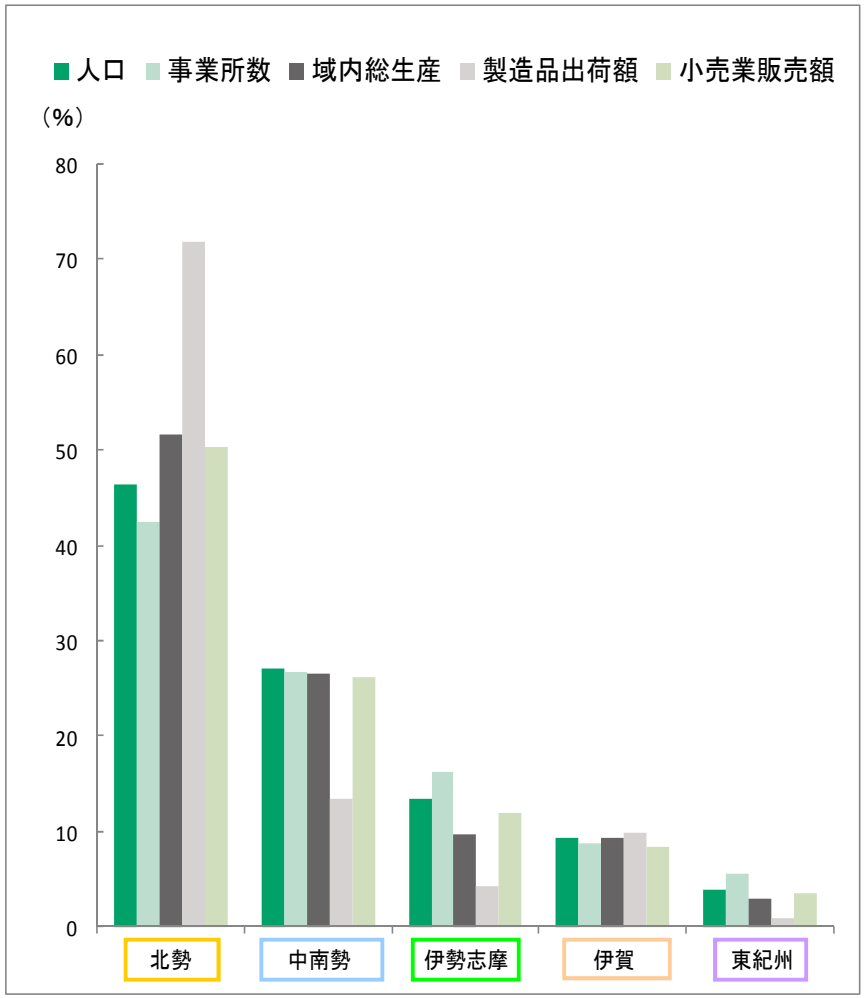
第76回国民体育大会
2021年

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重県の地域別経済水準

➢三重県を地域別にみると、北勢地域が、人口、事業所数、小売業販売額などで県内の4～5割、中南勢地域が3割弱、伊勢志摩地域が1割強、伊賀地域、東紀州地域がそれぞれ1割弱となっている。

	三重県合計	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州	資料年次
総面積（Km²）	5,774	1,109	1,842	1,146	688	990	2015年
構成比（%）	100.0	19.2	31.9	19.8	11.9	17.2	
人口（千人）	1,816	841	491	243	169	72	2015年
構成比（%）	100.0	46.3	27.0	13.4	9.3	3.9	
就業者数（千人）	873	409	233	117	82	32	2015年
構成比（%）	100.0	46.8	26.7	13.4	9.4	3.7	
民営事業所数（千カ所）	77.4	32.9	20.7	12.6	6.8	4.3	2016年
構成比（%）	100.0	42.5	26.7	16.3	8.8	5.6	
域内総生産（10億円）	7,656	3,949	2,035	737	707	229	2014年度
構成比（%）	100.0	51.6	26.6	9.6	9.2	3.0	
製造品出荷額等（10億円）	9,877	7,087	1,321	412	975	81	2016年
構成比（%）	100.0	71.8	13.4	4.2	9.9	0.8	
小売業販売額（10億円）	1,913	962	501	227	158	64	2015年
構成比（%）	100.0	50.3	26.2	11.9	8.3	3.4	

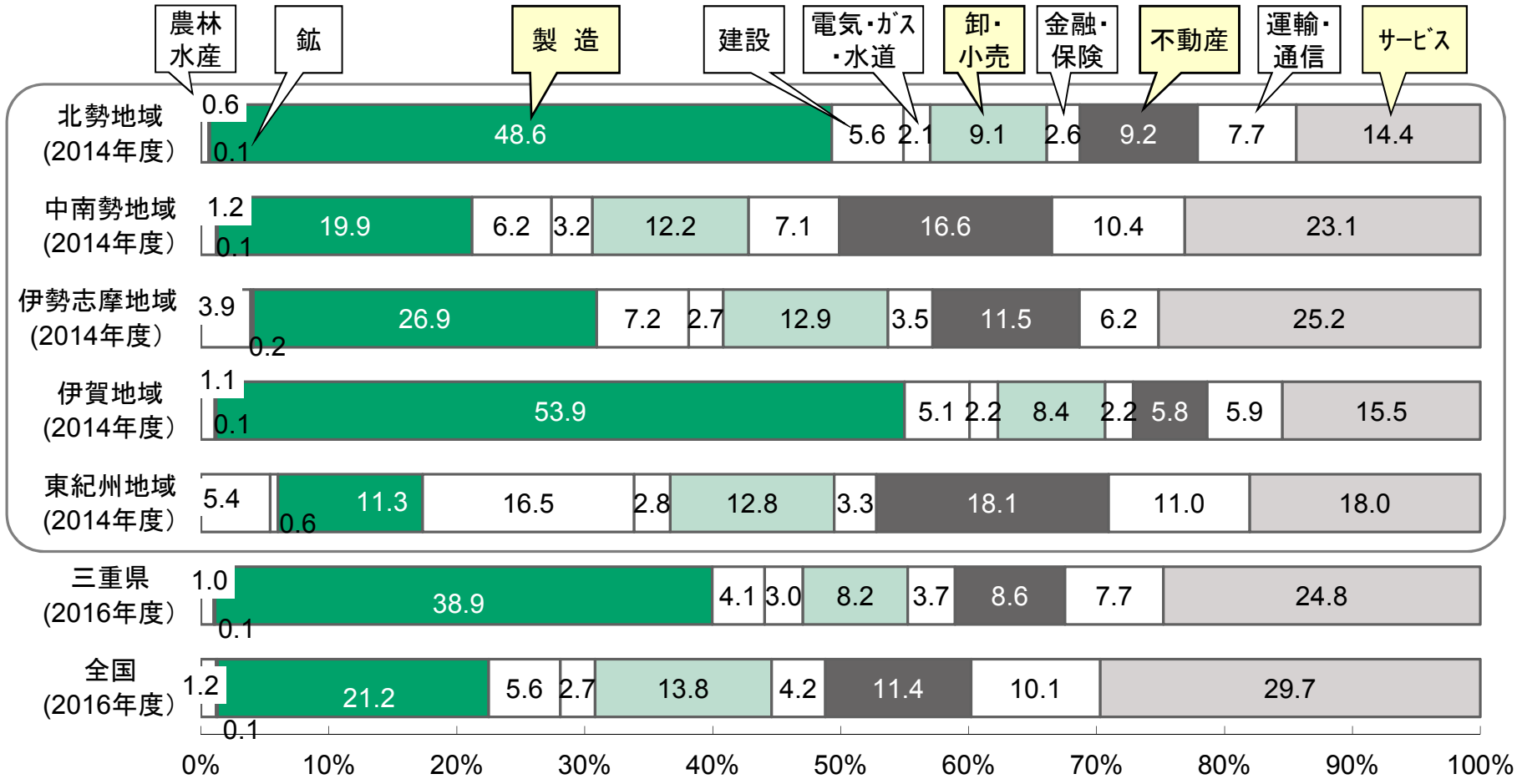


Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重県の産業構造

➢三重県の産業構造は、総生産額の約4割を占める製造業が中心で、次にサービス業が大きい。
地域別にみると、北勢地域や伊賀地域では、製造業のウエートが一段と高く、県内産業を牽引。
一方、中南勢地域や伊勢志摩地域、東紀州地域では、サービス、卸・小売、不動産など非製造業のウエートが高い。

＜域内総生産　産業別構成比＞



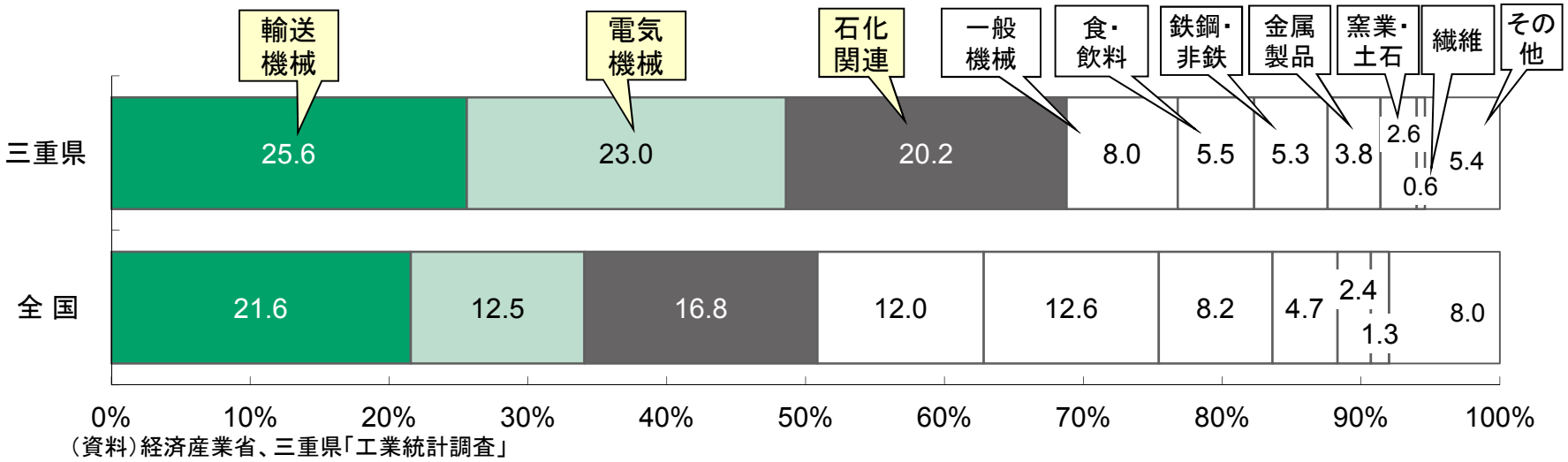
（資料）内閣府「国民経済計算」、三重県「三重県民経済計算」、「三重県の市町民経済計算」

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重県の製造業構成と生産動向

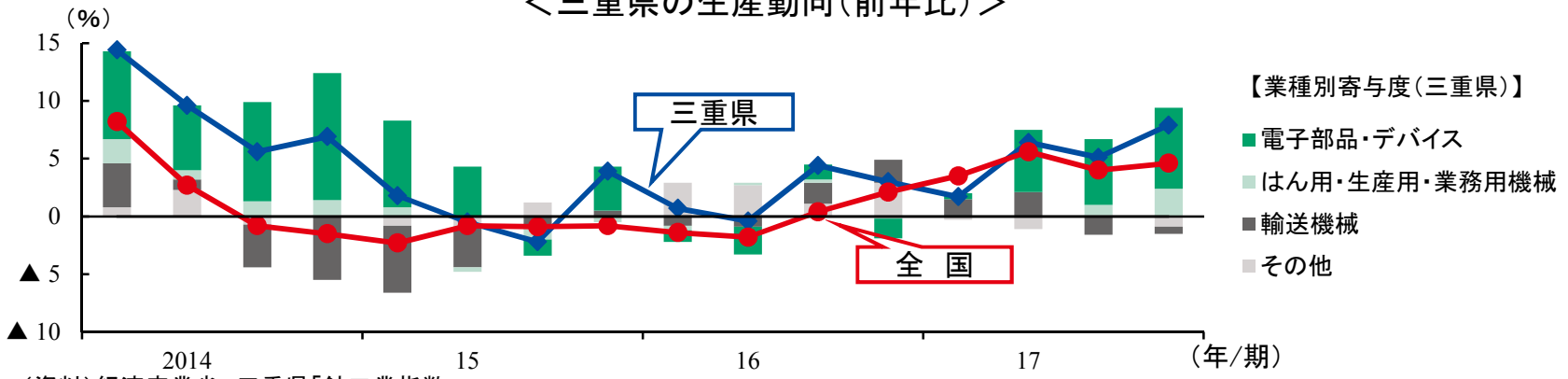
➢三重県の製造品出荷額は、電気機械、石油化学関連、輸送機械が合計で約7割を占める。
➢2017年の県内生産活動は、おおむね全国を上回る水準で推移。

＜三重県と全国の製造品出荷額　業種別構成比（2016年）＞



（資料）経済産業省、三重県「工業統計調査」

＜三重県の生産動向（前年比）＞



（資料）経済産業省、三重県「鉱工業指数」

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

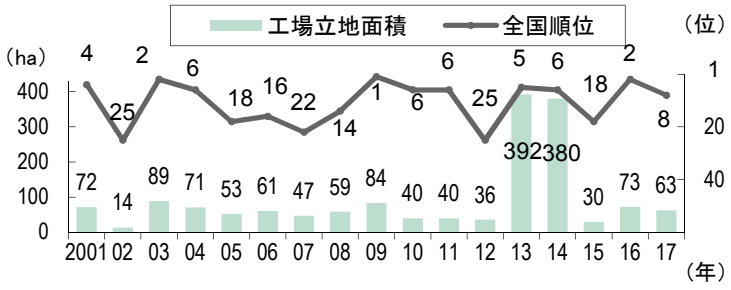
三重県下の大型投資

➢三重県では、電子部品・デバイス関連を中心に主要各社が大型投資を相次いで実施。
➢三重県は、各種補助金などを通じて産業振興のための企業立地を積極的に支援。

業種	工場・設備名など			投資額（億円）	稼働（予定）	備考
電気機械	シャープ	三重工場（多気町）		574 （堺工場との総額）	2018年	有機ELディスプレイの試作ラインを新たに構築
	東芝メモリ	四日市工場	第2製造棟建替	5,000（※）	2016年7月	3次元フラッシュメモリー量産のため、第2製造棟を建替え
			第6製造棟他	（2017年度）6,000 （2018年以降年間） 3,000 （北上工場との総額）	2018年	3次元フラッシュメモリーの製造棟を追加し、生産能力拡大
	富士電機	鈴鹿工場		70	2016年8月	他工場から研究開発機能を集約し、開発効率を向上
食料品	味の素	東海事業所（四日市市）		150	2019年度下期	調味料等の製造・包装の一貫生産を行う工場
木材木製品	日新	多気工場		70	2018年3月	紀伊半島のヒノキを活用した非構造用合板の生産工場
石油化学	ミルボン	ゆめが丘工場（伊賀市）		48	2017年	既存工場の生産能力を拡大し、売上増加に対応
	東ソー	四日市事業所		45	2019年	高分子材料・ウレタン関連の研究開発拠点を集約
生産用機械	ヤマザキマザック	いなべ製作所		200	2016年度	航空機など大型部品を加工する工作機械の生産工場
輸送機械	三菱重工業など	松阪工場		50（※）	2016年10月	企業10社が共同し、航空機部品を加工から納品まで一貫生産
	豊田自動織機	テストコース（亀山市）		40（※）	2018年	ハイブリッド車向けのモーターやエンジン開発
	豊田合成	いなべ工場		120（※）	2020年	燃料電池車向け高圧水素タンクを生産
	ゲスタンプ	松阪工場		75	2018年4月	車を軽量化するボディーなど自動車部品の生産工場

（資料）各社プレスリリース、報道発表資料等　（※）新聞報道より抜粋

＜三重県の工場立地面積の推移＞



（資料）経済産業省「工場立地動向調査」

＜三重県の企業投資促進制度の概要＞

補助金名	対象事業
成長産業立地補助金	航空宇宙、クリーンエネルギー、ライフイノベーション、食等の成長産業の投資
マザー工場型拠点立地補助金	製造業でマザー工場化につながる投資
研究開発施設等立地補助金	研究開発施設又は試験認証機関に係る投資
外資系企業アジア拠点立地補助金	外資系企業がアジアの生産拠点を整備する投資
地域資源活用型産業等立地補助金	県南部地域の製造業又は地域資源活用型産業の投資
サービス産業立地補助金	宿泊業、集客交流産業等サービス産業の投資
本社機能移転促進補助金	三重県内への本社機能移転および新増設
制度名	**内容**
マイレージ制度	1回の投資で補助金対象となるための要件をクリアできない事業であっても、投資を複数回積み重ねることで補助の対象とできる仕組み

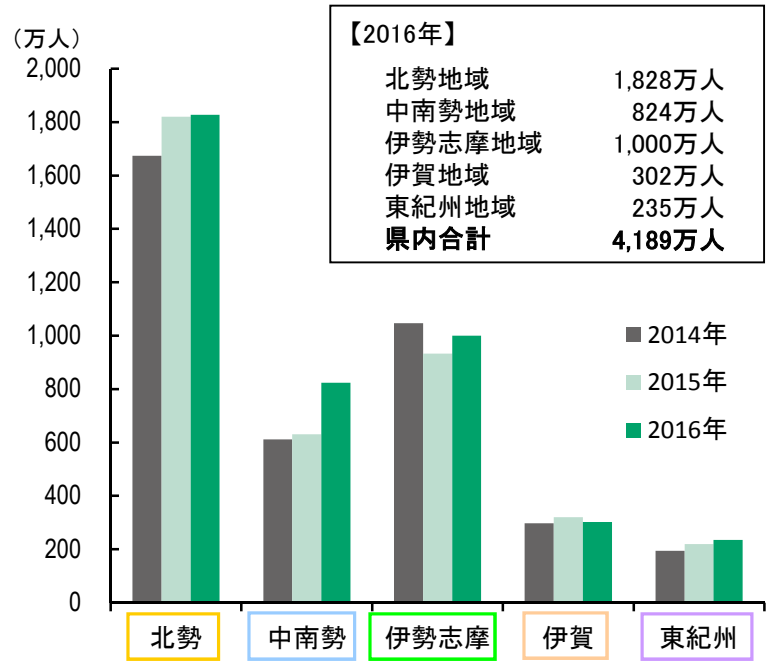
（資料）三重県HP「三重県企業立地ガイド」

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

三重県の観光動向

- 2016年の県内「観光レクリエーション入込客数」は4,189万人となり、前年比＋6.8%と2年連続の増加。
  伊勢志摩サミットが開催された伊勢志摩地域をはじめ、中南勢・北勢・東紀州地域も増加。
  三重県全体では、現在の集計方法を導入した2005年以降、過去最多となった。

＜地域別観光レクリエーション入込客数（実数）＞



＜調査地点別にみた入込客数（延べ人数）＞
（2016年、上位10地点）

順位	調査地点名	入込客数	前年比
1	ナガシマリゾート（桑名市）	1,510万人	▲0.3%
2	伊勢神宮（伊勢市）	874万人	＋4.3%
3	おかげ横丁（伊勢市）	544万人	＋3.7%
4	鈴鹿サーキット（鈴鹿市）	201万人	▲3.2%
5	鳥羽市旅館街（鳥羽市）	185万人	▲2.0%
6	二見興玉神社（伊勢市）	184万人	＋7.1%
7	湯の山温泉（菰野町）	178万人	▲0.7%
8	多度大社（桑名市）	147万人	＋2.4%
9	椿大神社（鈴鹿市）	146万人	＋0.7%
10	志摩スペイン村（志摩市）	121万人	▲5.3%

（資料）三重県「平成28年観光レクリエーション入込客数推計及び観光客実態調査」

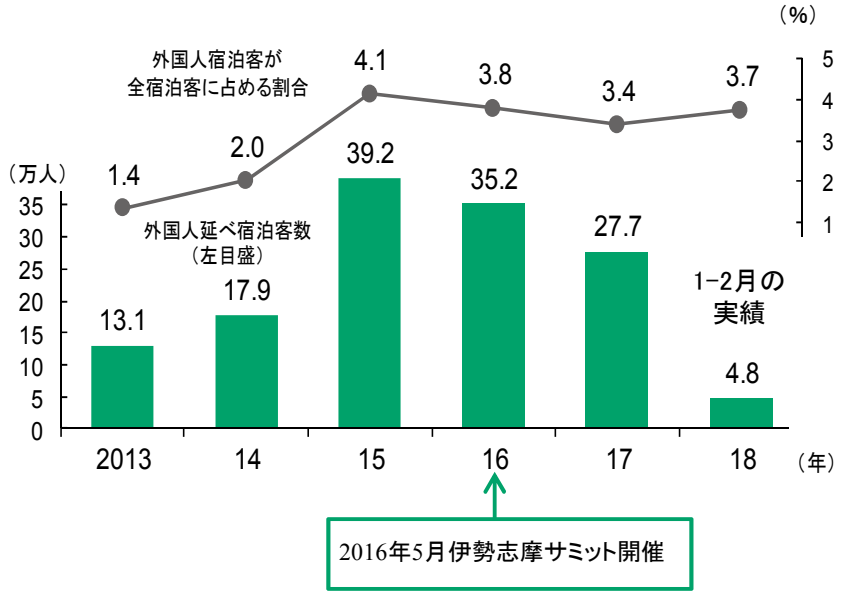
その他、三重県内では、2019年夏、津市にベビースターラーメン工場一体型施設の「おやつタウン」や、
2020年2月、多気町に食や健康などをテーマにした複合リゾート施設の「アクアイグニス多気」がオープン予定。

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

拡大が見込まれるインバウンド需要

- 2017年の外国人宿泊客数は27.7万人と、伊勢志摩サミット開催決定の2015年以降、三重県を訪れる外国人客は多く、全宿泊客に占める割合もサミット前を上回る水準。
- サミットが開催後、三重県を訪れる外国人客数は伸び悩んでいるものの、引き続き拡大が期待されるインバウンド需要を取り込むため、様々な取組みが実施されている。

＜県内の外国人宿泊客数推移＞



＜33FGのインバウンド需要拡大に向けた取組み＞

●ガストロノミーツーリズムに関する連携協定を締結

2017年11月に、地域に根ざした食と温泉等地域資源を活用した観光振興、情報発信により海外客誘致などを連携して行う協定をANA総研、ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構などと締結

＜インバウンド需要拡大に向けた主な取組み＞

【外国人客の誘致拡大】
・旅行情報サイト「トリップアドバイザー」との連携 ⇒「外国人おもてなしプロジェクト」を実施し、新たに外国人向け観光情報サイトを公開
・FacebookなどSNSを活用した観光情報発信
・案内表示ピクトグラムを県HPに公開し、民間での利用を促進
・訪日外国人客向けフリーペーパーへの県内観光情報掲載
【県内での外国人客の利便性向上】
・無料公衆無線LAN「FreeWiFi-MIE」を県内観光施設など約1,200ヵ所以上に整備し、現在もスポットを拡大中
・観光案内などを目的とした外国語での指さし会話集の設置
【ゴルフツーリズムの推進】
・国内初となる、日本ゴルフツーリズムコンベンションを開催（2018年10月） ⇒日本を目的地とするゴルフツアー商品のための商談会で、旅先でゴルフを楽しむ「ゴルフツーリズム」の誘致を目指す

（資料）三重県公表資料などをもとに三重銀総研作成

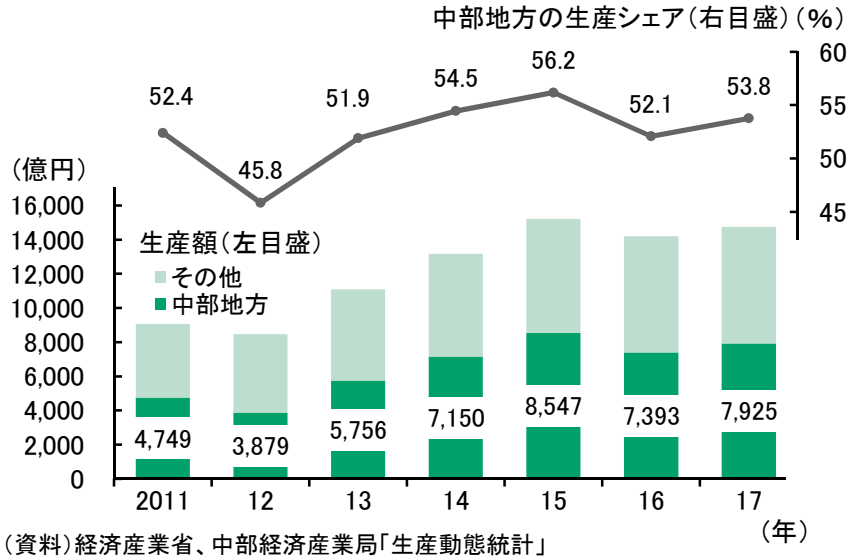
Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

成長が期待される航空宇宙産業

➢三重・愛知両県を含む中部地方では、愛知県を中心に航空宇宙産業関連の生産が活発化しており、2013年以降、全国の航空機・部品の半数以上を中部地方で生産。

➢航空宇宙産業は、①航空機1機あたりの部品点数が約300万点と多く、産業のすそ野が広いこと、②部品の製造には高い技術力が要求され、他産業への技術波及効果も見込まれること、といった特徴がみられる。
三重県でも、県内企業の高い技術力などの強みを活かし、中長期的な振興に注力。

＜航空機・部品の国内生産額＞



（資料）経済産業省、中部経済産業局「生産動態統計」
（注）中部地方は、三重・愛知・岐阜・富山・石川の5県合計。

●航空関連施設が充実

2017年度、愛知県では、「MRJミュージアム」、「あいち航空ミュージアム」が開業したほか、岐阜県では、「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」がリニューアルオープン。2018年夏には、セントレアにボーイング787初号機の展示をメインとした複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」が開業予定。

＜三重県の航空宇宙産業に関する強み＞

・技術力のある中小企業の集積

自動車メーカーや石油化学コンビナートが立地する北勢地域を中心に、素材・機械加工・生産設備等に強みを持つ企業が多数集積している。

・高度な技術人材の育成

三重大学工学部、鈴鹿工業高等専門学校等から優秀な技術人材を輩出しているほか、中部航空宇宙産業技術センター等を通じて技術人材育成、ビジネスマッチングといった企業の相談に応える体制が整備されている。

・中小企業連携体による一貫生産体制の計画

三菱重工業（株）松阪工場を中心に、中小企業連携体による部品製造クラスターが進行しており、航空宇宙産業に関する先進的な取組みとして注目されている。

・海外の航空宇宙産業の中心地とのネットワーク

県知事によるボーイング社へのトップセールスや、アメリカ・インドの自治体との連携覚書締結など、県内企業の海外進出が円滑に進むためのネットワークを構築している。

（資料）三重県公表資料などをもとに三重銀総研作成

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

預金内訳(三重銀行分)

■地域別預金内訳(含むNCD)

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
預金等	17,170	100.0%	17,602	100.0%	17,669	100.0%	67	0.3%
三重	12,030	70.0%	12,280	69.7%	12,455	70.4%	174	1.4%
愛知	3,421	19.9%	3,495	19.8%	3,496	19.7%	0	0.0%
東京	1,547	9.0%	1,567	8.9%	1,505	8.5%	▲62	▲3.9%
大阪	171	0.9%	259	1.4%	213	1.2%	▲45	▲17.6%

■人格別預金内訳(含むNCD)

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
預金等	17,170	100.0%	17,602	100.0%	17,669	100.0%	67	0.3%
地公体	988	5.7%	1,137	6.4%	894	5.0%	▲ 243	▲21.3%
金融機関	163	0.9%	167	0.9%	63	0.3%	▲ 103	▲61.6%
一般法人	5,099	29.6%	5,391	30.6%	5,626	31.8%	234	4.3%
個人	10,918	63.5%	10,904	61.9%	11,084	62.7%	179	1.6%

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

預金内訳(第三銀行分)

■地域別預金内訳(含むNCD)

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
預金等	17,884	100.0%	17,970	100.0%	18,150	100.0%	180	1.0%
三重	12,081	67.6%	12,021	66.9%	12,285	67.7%	264	2.2%
愛知	3,353	18.8%	3,525	19.6%	3,382	18.6%	▲ 142	▲4.0%
東京	77	0.4%	92	0.5%	178	1.0%	86	92.8%
大阪	837	4.7%	831	4.6%	829	4.6%	▲ 1	▲0.2%
その他	1,534	8.6%	1,499	8.3%	1,474	8.1%	▲ 25	▲1.7%

■人格別預金内訳(含むNCD)

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
預金等	17,884	100.0%	17,970	100.0%	18,150	100.0%	180	1.0%
地公体	642	3.6%	794	4.4%	702	3.9%	▲ 92	▲11.7%
金融機関	31	0.2%	68	0.4%	73	0.4%	4	6.5%
一般法人	3,322	18.6%	3,581	19.9%	3,961	21.8%	380	10.6%
個人	13,888	77.7%	13,525	75.3%	13,413	73.9%	▲ 111	▲0.8%

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

貸出金内訳(三重銀行分)

■地域別貸出状況

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
貸出金	13,374	100.0%	13,811	100.0%	13,695	100.0%	▲ 116	▲0.8%
三重	5,899	44.1%	6,227	45.0%	6,354	46.3%	127	2.0%
愛知	4,056	30.3%	4,149	30.0%	4,139	30.2%	▲ 9	▲0.2%
東京	2,845	21.2%	2,829	20.4%	2,595	18.9%	▲ 234	▲8.2%
大阪	573	4.2%	605	4.3%	605	4.4%	0	0.0%

■規模別貸出状況

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
貸出金	13,374	100.0%	13,811	100.0%	13,695	100.0%	▲ 116	▲0.8%
公金	272	2.0%	220	1.5%	185	1.3%	▲ 34	▲15.5%
大企業	3,357	25.1%	3,104	22.4%	2,835	20.7%	▲ 269	▲8.6%
中堅企業	425	3.1%	474	3.4%	517	3.7%	42	8.9%
中小企業等向け	9,320	69.6%	10,012	72.4%	10,157	74.1%	144	1.4%
(中小企業)	4,967	37.1%	5,628	40.7%	5,763	42.0%	134	2.3%
(個人)	4,352	32.5%	4,383	31.7%	4,393	32.0%	9	0.2%

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

貸出金内訳(第三銀行分)

■地域別貸出状況

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
貸出金	12,493	100.0%	12,601	100.0%	12,765	100.0%	163	1.3%
三重	6,656	53.3%	6,710	53.2%	6,662	52.2%	▲ 48	▲0.7%
愛知	2,581	20.7%	2,614	20.7%	2,621	20.5%	6	0.3%
東京	1,646	13.2%	1,685	13.4%	1,825	14.3%	140	8.3%
大阪	930	7.5%	904	7.2%	949	7.4%	45	5.0%
その他	678	5.4%	687	5.5%	706	5.5%	19	2.8%

■規模別貸出状況

(単位:億円)

	2016年3月末		2017年3月末		2018年3月末		前年比	
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比	増減	増減率
貸出金	12,493	100.0%	12,601	100.0%	12,765	100.0%	163	1.3%
公金	913	7.3%	851	6.8%	812	6.4%	▲ 39	▲4.7%
大企業	1,609	12.9%	1,541	12.2%	1,496	11.7%	▲ 44	▲2.9%
中堅企業	202	1.6%	191	1.5%	232	1.8%	41	21.7%
中小企業等向け	9,769	78.2%	10,017	79.5%	10,224	80.1%	206	2.1%
(中小企業)	6,427	51.4%	6,591	52.3%	6,704	52.5%	113	1.7%
(個人)	3,341	26.7%	3,426	27.2%	3,519	27.6%	93	2.7%

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

利回り・利鞘（三重銀行分）

■利回り・利鞘

		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	前期比増減
資金運用利回	A	1.03%	0.95%	0.95%	+0.00p
貸出金利回	B	1.12%	1.03%	1.00%	▲0.03p
有価証券利回		0.89%	0.83%	0.92%	+0.09p
資金調達原価	C	1.13%	1.08%	1.03%	△0.05p
預金債券等原価	D	1.11%	1.08%	1.04%	△0.04p
預金等利回	E	0.07%	0.04%	0.02%	△0.02p
経費率		1.04%	1.04%	1.01%	△0.03p
（人件費率）		0.57%	0.58%	0.57%	△0.01p
（物件費率）		0.42%	0.39%	0.39%	+0.00p
預貸金利鞘	B-D	0.01%	▲0.05%	▲0.04%	+0.01p
総資金利鞘	A-C	▲0.10%	▲0.13%	▲0.08%	+0.05p
預貸金利回差	B-E	1.05%	0.99%	0.97%	▲0.01p
預貸率（平残）		77.90%	78.44%	78.29%	▲0.15p
預証率（平残）		25.01%	24.69%	23.16%	▲1.53p

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

利回り・利鞘（第三銀行分）

■利回り・利鞘

		16年3月期	17年3月期	18年3月期	前期比増減
資金運用利回	A	1.38%	1.25%	1.23%	▲0.02p
貸出金利回	B	1.50%	1.37%	1.28%	▲0.09p
有価証券利回		1.26%	1.07%	1.19%	+0.12p
資金調達原価	C	1.27%	1.18%	1.14%	△0.04p
預金債券等原価	D	1.29%	1.23%	1.20%	△0.03p
預金等利回	E	0.11%	0.08%	0.04%	△0.04p
経費率		1.18%	1.15%	1.16%	+0.01p
（人件費率）		0.66%	0.64%	0.64%	0.00p
（物件費率）		0.45%	0.44%	0.44%	0.00p
預貸金利鞘	B-D	0.21%	0.14%	0.08%	▲0.06p
総資金利鞘	A-C	0.11%	0.07%	0.09%	+0.02p
預貸金利回差	B-E	1.39%	1.29%	1.24%	▲0.05p
預貸率（平残）		68.86%	70.10%	70.71%	+0.61p
預証率（平残）		32.77%	32.83%	31.98%	▲0.85p

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved

自己査定　債務者区分遷移状況（三重銀行分）

上方遷移（ランクアップ）
下方遷移（ランクダウン）

■①債務者数[※1]ベース（17/3月末→18/3月末　年間の推移）

（先）

		18/3月末									
		正常先	その他要注意先	要管理先	破綻懸念先	実質破綻先	破綻先	その他[※2]	全額返済	全額債権譲渡・売却	全額償却
17/3月末	正常先	5,019	93	2	12	3	1	487	486	1	0
	その他要注意先	86	602	0	40	6	1	70	70	0	0
	要管理先	0	1	7	0	0	0	2	2	0	0
	破綻懸念先	2	58	1	256	4	0	24	24	0	0
	実質破綻先	1	1	0	5	51	1	20	18	2	0
	破綻先	0	0	0	0	0	8	2	1	1	0

■②与信額ベース（17/3月末→18/3月末　年間の推移）

（億円）

		18/3月末									
		正常先	その他要注意先	要管理先	破綻懸念先	実質破綻先	破綻先	その他[※3]	全額返済	全額債権譲渡・売却	全額償却
17/3月末	正常先	8,113	81	1	2	0	1	297	297	0	0
	その他要注意先	117	382	0	15	1	7	13	13	0	0
	要管理先	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
	破綻懸念先	0	30	0	91	5	0	5	5	0	0
	実質破綻先	0	0	0	6	19	1	2	2	0	0
	破綻先	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0

※1 ・対象債務者は個人ローンを除く
・17/3月末において各債務者区分に属していた債務者が18/3月末においてどの区分に属しているかを記入。
・債務者数と与信額は、17/3月末時点のもの。17年度中の新規債務者、追加与信は含めない。

※2 ・債務者ベース「その他」は、17年度中に債権全額を返済、譲渡・売却ないし償還した結果、債権残高がゼロになった先数。

※3 ・与信額ベース「その他」は、各債務者区分の17/3月末時点（期首）の与信残高のうち、17年度中に減少した金額。

（単位：先、億円）

	16年度		17年度	
	先数	金額	先数	金額
上方遷移	162	108	155	154
下方遷移	130	70	163	117

Copyright (C)　San ju San Financial Group, Inc. 2018　All　Rights　Reserved

自己査定　債務者区分遷移状況（第三銀行分）

※1

■①債務者数ベース（17/3月末→18/3月末　年間の推移）

上方遷移（ランクアップ）
下方遷移（ランクダウン）

（先）

		18/3月末									
		正常先	その他要注意先	要管理先	破綻懸念先	実質破綻先	破綻先	その他※2	全額返済	全額債権譲渡・売却	全額償却
17/3月末	正常先	11,773	482	5	33	15	2	1,851	1,848	0	3
	その他要注意先	264	1,855	2	276	24	2	299	287	2	10
	要管理先	1	6	14	6	1	0	5	5	0	0
	破綻懸念先	1	10	0	232	25	5	46	31	7	8
	実質破綻先	0	0	0	0	102	0	50	31	10	9
	破綻先	0	0	0	0	0	16	11	7	4	0

■②与信額ベース（17/3月末→18/3月末　年間の推移）

（億円）

		18/3月末									
		正常先	その他要注意先	要管理先	破綻懸念先	実質破綻先	破綻先	その他※3	全額返済	全額債権譲渡・売却	全額償却
17/3月末	正常先	7,719	243	1	7	4	0	275	271	1	2
	その他要注意先	67	750	0	96	5	1	56	53	0	3
	要管理先	1	5	8	1	0	0	0	0	0	0
	破綻懸念先	0	8	0	137	10	2	34	12	1	20
	実質破綻先	0	0	0	0	16	0	11	10	1	0
	破綻先	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

※1 ・対象債務者は個人ローンを除く
・17/3月末において各債務者区分に属していた債務者が18/3月末においてどの区分に属しているかを記入。
・債務者数と与信額は、17/3月末時点のもの。17年度中の新規債務者、追加与信は含めない。

※2 ・債務者ベース「その他」は、17年度中に債権全額を返済、譲渡・売却ないし償還した結果、債権残高がゼロになった先数。

※3 ・与信額ベース「その他」は、各債務者区分の17/3月末時点（期首）の与信残高のうち、17年度中に減少した金額。

（単位：先、億円）

	16年度		17年度	
	先数	金額	先数	金額
上方遷移	329	136	282	81
下方遷移	572	187	878	370

Copyright (C)　San ju San Financial Group, Inc. 2018　All　Rights　Reserved

経営強化計画（第三銀行分）

（1）コア業務純益

（単位：百万円）

	27年3月期実績（計画始期）	29年3月期実績	30年3月期		
			計画	**実績**	計画対比
コア業務純益	6,283	5,274	6,760	**5,082**	△1,678

＊コア業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益

＊27/3期が計画始期

（2）当期純利益・利益剰余金残高の計画と実績

（単位：億円）

	21年3月末	22年3月末		23年3月末		24年3月末		25年3月末		26年3月末		27年3月末		28年3月末		29年3月末		30年3月末		30/3月計画比
	実績	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	
当期純利益	△276	15	**22**	24	**32**	23	**23**	18	**19**	20	**44**	24	**41**	30	**36**	32	**32**	35	**43**	**8**
利益剰余金	7	8	**18**	15	**39**	20	**49**	52	**54**	59	**87**	70	**111**	128	**134**	148	**154**	170	**187**	**17**

※各年度末の利益剰余金は、普通株及び優先株の配当額を当期純利益に対応する年度から控除しています。

（3）経営改善支援等の取組み

（単位：先）

	27年3月期	27年9月期		28年3月期		28年9月期		29年3月期		30年3月期	
	実績	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**	計画	**実績**
創業・新事業開拓支援	38	30	**40**	30	**39**	30	**43**	30	**32**	30	**53**
経営相談	32	64	**82**	64	**123**	65	**99**	66	**102**	66	**90**
早期事業再生支援	8	7	**7**	7	**7**	8	**12**	8	**18**	9	**27**
事業承継支援	3	3	**4**	3	**2**	3	**3**	3	**5**	3	**33**
担保・保証に必要以上に依存しない融資促進	214	194	**231**	195	**266**	196	**290**	197	**491**	200	**308**
合計【経営改善支援等取組数】	295	298	**364**	299	**437**	302	**447**	304	**648**	308	**511**

Copyright (C) San ju San Financial Group, Inc. 2018 All Rights Reserved